

富士市SDGsの課題と取り組み



6 安全な水とトイレ
を世界中に



目標 6

すべての人々に水と
衛生へのアクセスを確保する

富士市の課題

日本に住んでいると、当たり前水道水やトイレを使用していますが、世界には、危険な水を飲料水として使用しなければならない人や衛生的にトイレを使えない人が多くいて、SDGsの一つになっています。富士市は、富士山からのおいしい地下水が豊富にあり、安全でおいしい水を飲むことができ、トイレも衛生的に利用することができます。しかし、近年富士市においても人口減少などにより料金収入が減っているため、事業運営は厳しい状況にあります。また、目の前の課題を解決するには、非常に多くのお金がかかるので、効率的、効果的に事業を進めていかなければなりません。

水道事業では、管路などの水道施設の老朽化が進んでいることから、大規模な地震災害などが発生した場合、水道水が止まらないよう、災害に強く安定した水道水を確保するため、水道施設の老朽化や耐震化事業を進める必要があります。また、公共下水道事業では、適切に処理されていない生活排水は、海や川などを汚す原因となることから、公衆衛生の向上に努め、河川や水路などの継続的な水質保全を図るため、生活排水対策を進める必要があります。そのためには、持続可能な経営基盤を確保して、施設整備を進めていく必要があります。



配管工事



東部-B-DASH

富士市の取り組み

水道事業では、人口減少など社会の変化に合わせてながら、私用者が少ない場所ではこれまでの水道管を小さいものに変更したり、施設の点検等を頻繁に行うことで、施設を長く使えるようにしています。公共下水道事業では、汚泥を運んで処分することに多くのお金がかかるので、汚泥を減らす取り組みを行ったり、汚泥を処分する際に発生する消化ガスを売却することなどを取り組んでいます。

水もれの早期発見、早期修繕を図るため、先進的な手法である最新技術を取り入れて衛星画像によるAI解析の調査を実施したり、民間事業者の創意工夫を活用し、民間と協力して事業を進める地域バイオマス受け入れによる発電事業の拡大を検討するなどしていきます。

両事業では、経営改善に努めていながら、持続可能な経営基盤を確保しつつ、課題となっている水道施設の老朽化や耐震化事業及び生活排水対策を計画的かつ効率的に実施していき、皆さんが安心・安全で利用できるライフラインの確保に努めています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



立華株式会社 取締役

加藤 雅士

環境測量士の資格を有しており、工場などから出る排水や排ガス中の汚染物質の測定を仕事の一つとしています。2018年から富士市水道事業及び公共下水道経営審議会の委員を務めています。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS